

研究主題

変化の激しい時代を生き抜く資質・能力の育成

～「主体的・対話的で深い学び」を通して、子供たちに求められる
資質・能力を育む学習指導について～

実践事例編

目次

単元(題材)の指導計画例 7	中学校・国語	110
単元(題材)の指導計画例 8	高等学校・国語	111
単元(題材)の指導計画例 9	小学校・社会	112
単元(題材)の指導計画例 10	中学校・社会	113
単元(題材)の指導計画例 11	小学校・算数	114
単元(題材)の指導計画例 12	高等学校・数学	115
単元(題材)の指導計画例 13	小学校・理科	116
単元(題材)の指導計画例 14	高等学校・理科	117
単元(題材)の指導計画例 15	小学校・生活	118
単元(題材)の指導計画例 16	小学校・音楽	119
単元(題材)の指導計画例 17	中学校・音楽	120
単元(題材)の指導計画例 18	小学校・図画工作	121
単元(題材)の指導計画例 19	中学校・美術	122
単元(題材)の指導計画例 20	小学校・家庭	123
単元(題材)の指導計画例 21	中学校・技術・家庭(家庭)	124
単元(題材)の指導計画例 22	中学校・技術・家庭(技術)	125
単元(題材)の指導計画例 23	小学校・体育	126
単元(題材)の指導計画例 24	中学校・保健体育	127
単元(題材)の指導計画例 25	高等学校・保健体育	128
単元(題材)の指導計画例 26	小学校・外国語活動	129
単元(題材)の指導計画例 27	中学校・外国語	130
単元(題材)の指導計画例 28	高等学校・情報	131
単元(題材)の指導計画例 29	小学校・道徳	132
単元(題材)の指導計画例 30	中学校・道徳	133
単元(題材)の指導計画例 31	小学校・特別活動	134

上記の事例は、44 頁から 55 頁までにある小学校・中学校・高等学校の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る学習過程を位置付けた単元(題材)の指導計画例に掲載されていない校種・教科等の単元(題材)の指導計画例である。なお、44 頁から 55 頁までの事例はそれぞれ 2 頁であったが、ここに掲載する資料は、1 事例を 1 頁にまとめて示している。

単元(題材)の指導計画例7

中学校

第2学年

国語

単元名「随筆を読み味わう」 教材名「字のない葉書」「ごはん」(一部抜粋) 向田邦子

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

◎ すすんで二つの随筆を比べて読み、自分の考えをもととする態度

生きて働く「知識・技能」

◎ 登場人物の言葉や行動から、心情を捉えることに関する理解

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

◎ 比べ読みを通して、登場人物の言動の意味や表現の仕方について、自分の考えをまとめる力

指導計画

(4時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1	- 父親像について、感じたことや考えたことをまとめ、感想を交流するという単元の流れについての見直しをもつ。 「字のない葉書」の前半部分を読み、時代・場面・登場人物・語句を確認する。 - 前半の描写を基に、“父”の人物像を「日常の父」と「手紙の中の父」とに分けて読み取る。 - 後半の内容を大まかにつかむ。 “父”が「声を上げて泣いた」ときの心情を考えて書く。	A B C	【第3・4時】 A-① 課題の設定と把握 「字のない葉書」と「ごはん」の学習内容を振り返るための質問を通して、二つの随筆に登場する同一人物である“父”の変化等に気付かせ、課題を見いださせるようにする。 A-② 自分の考えの構築 「字のない葉書」と「ごはん」の比べ読みをしながら、“父”についての以下の二つの観点をノートに表の形でまとめ、見やすく整理させるようにする。 観点1 父を表す言葉 観点2 父の涙の理由
2	「ごはん」を読み、時代・場面・人物・語句を確認する。 - 父の四つの台詞を抜き出し、そこから人物像を読み取る。	A B C	B-① 対話の目的 自分の考えを更に深めるために、他者と話し合い、交流することを目的とする。
3	「字のない葉書」と「ごはん」の読み比べをし、“父”の心情を読み取る。 - ワークシートに「字のない葉書」と「ごはん」の共通点・相違点をまとめる。 - 全体で共有したのち、“父”が「声を上げて泣いた」ときの心情を再度考えて書く。 - 書いた部分を4人班で交流し、学級全体に発表する。	A B C	B-② 編成・役割分担 4人グループ(席の近くの生徒同士) 司会者、記録者、発表者を分担する。 B-③ 対話 各自が書いたことを基に話し合い、ホワイトボードにまとめ、各グループのホワイトボードを黒板に貼り出して全体で共有することで、多様な考えを知ることができるようにする。
4	「字のない葉書」を書いた筆者の思いを想像し、自分の考えを書く。 - これまでの学習を振り返り、「字のない葉書」執筆時の筆者が“父”のことをどう捉えていたかについてまとめる。 - 比べ読みをした感想等を書く。	C	C-① 自分の考えの再構築 「字のない葉書」で“父”が「声を上げて泣いた」ときの心情について、生徒の第1時での考えの記述と比べ読みの結果を基にした考えの記述を比較し、比べ読みを通して考えが深められたことが確認できるようにする。 C-② 更なる課題の発見 筆者の“父”についての思いだけでなく、自分自身の家族に対する捉え方や思いとその変化等についても視点を示し感想を記述させるようにする。

単元(題材)の指導計画例8

高等学校

第1学年

国語(国語総合)

単元名「評論(三)」 教材名「見る」 茂木健一郎

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ◎ 教材文を読み、理解し、それを踏まえて自分の考えを表現する力をすすんで高めようとする態度

生きて働く「知識・技能」

- ◎ 教材文で扱われているテーマに関する語句についての知識

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ 文章の構成や内容を正確に読み取り、大意を説明する力

指導計画

(4時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1	・本文に書かれている具体例・事実とそれについての既成の意見・見方、筆者の意見を読み取る。	A	【第2時】 A-① 課題の設定と把握 本文を「具体例・事実」「既成の意見・見方」「筆者の意見」に分けた上で、要点を見付けるようにして読むと、本文の要旨についての理解が進むことを生徒の読書経験や既習事項等と関連付けて認識させ、生徒が学習することの意義を見いだし、理解できるようにする。 A-② 自分の考えの構築 次の三つのポイントを踏まえ、本文を200字程度で要約させる。 〈ポイント〉 ・具体例を極力省くこと ・本文の展開に沿うこと ・必要に応じ表現を工夫すること B-① 対話の目的 ワークシートにあるチェックポイントに基づき、相手の要約文の完成度を評価し合う。このような活動を通して、多様な考えに触れ、自らの思考を深められるように促す。 B-② 編成・役割分担 ペアで、説明者・評価者を相互に交代する。 C-② 更なる課題の発見 筆者や友達の多様な考えに触れ、要約文を書き直す中で自分の日常生活等と関連付けて考え、自分が取り入れたいこと等を見いだしさせる。 また、「具体例・事実」「既成の意見・見方」「筆者の意見」に分けた上で、要点を見付けるようにして読むことのよさを実感できる振り返りを行い、日常での読書との関連を図るようにする。
2	・筆者の主張とそれ以外の部分を区別し、要旨をまとめる。	A B C	
3	・文章の細部まで読み取り、抽象的な部分、捉えにくい指示語、比喩が用いられている部分などについて、読み解く。	A	
4	・筆者の主張を、自分なりに解釈し説明する。	A B C	

単元(題材)の指導計画例9

小学校

第4学年

社会

単元名「わたしたちの東京都」 小単元名「山の自然を生かした人々の暮らし～檜原村～」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ◎ 東京都の特色ある地域の様子に関心をもち、意欲的に調べようとする態度
- ◎ 東京都の特色ある地域の活性化に関わる人々の努力や思いを考えようとする態度

生きて働く「知識・技能」

- ◎ 地図や資料、聞き取り調査、インターネット等を用いて、東京都の特色ある地域の様子について必要な情報を集め、読み取る技能
- ◎ 東京都の特色ある地域について、調べたことを基にガイドマップにまとめる技能
- ◎ 自然環境を生かして生活している檜原村の人々の様子や特色ある地域の産業等についての理解

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ 東京都内の特色ある地域の様子について、学習問題や予想を立てるとともに、学習計画を考え表現する力
- ◎ 東京都の特色ある地域について、その特色を調べたことを根拠にしながら適切に表現する力

指導計画

(9時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1 ・ 2	・ 檜原村の生活の様子や産業等に興味・関心をもち、学習問題を考える。 檜原村の人々はどのように地域の特色を生かした暮らしをしているのだろうか。 ・ 学習問題の予想を基に、学習計画を立てる。	A	【小単元全体】 A-① 課題の設定と把握 檜原村の場所を地図で確認し、自分たちの住んでいる地域と比較することを通して、そこに住む人々に着目した疑問や知りたいことを挙げさせる。その疑問や知りたいことを学級で共有し、学習問題を設定することで学習への意欲を高めるようにする。 A-② 自分の考えの構築 設定した学習問題について、自分たちの地域との比較などを基に予想し、その予想を整理しながら調べる視点を見いださせるようにする。そして、既習の単元での学習活動の流れや調べ方などについてノートや掲示物を振り返るように助言し、学習計画を立てさせるようにする。
3 ・ 4 ・ 5	・ 檜原村の土地の特色について調べる。 ・ 檜原村で人々の生活の様子について調べる。 ・ 檜原村で行われている産業について調べる。 ・ 檜原村で行われている祭りなどについて調べる。	B	B-① 対話の目的 檜原村の人々の暮らしの特色を様々な視点から理解できるようにすることを目的とする。
6	・ 学習問題に対する自分の考えをまとめる。		B-③ 対話 土地の特色と人々の暮らしや産業、年中行事等の視点から調べたことを関連させて伝え合うことで、自分にはなかった視点からの檜原村についての理解を促す。
7 ・ 8 ・ 9	・ 檜原村に暮らす人々が地域を生かそうと努力していることについての資料を基に、地域を活性化させるための取組について調べる。 ・ 今までの学習を通して分かったことを基に、檜原村の特色をガイドマップにまとめる。	C	C-① 自分の考えの再構築 学習問題に対する自分の考えと、檜原村に暮らす人々の地域を活性化させる取組について関連付けて考え、檜原村に暮らす人々の思いや願いに気付かせるように学習を振り返り、まとめさせるようにする。

単元(題材)の指導計画例 10

中学校

第3学年

社会

単元名「日本の財政と私たちの生活」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ◎ 今後の日本におけるよりよい財政の在り方について、主体的に調べ、意欲的に追究しようとする態度

生きて働く「知識・技能」

- ◎ 日本の財政の役割、税制の仕組み、消費税が作られた社会背景などに関する理解
◎ 資料から財政に関する情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ 今後の日本におけるよりよい財政について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力
◎ 五つの財政案を踏まえ、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力

指導計画

(10 時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1 ・ 2 ・ 3 ・ 4	日本の税制の仕組み、財政の役割、少子高齢化による社会保障費の増大、赤字財政、消費税導入の背景等について理解する。		【第5時～第9時】 A-① 課題の設定と把握 第1時～第4時まで学習したことを基に、日本の社会に起こり得る問題を捉え、それを解決するためのよりよい財政の在り方について考えるという課題を提示する。本単元の最後に意見文を書く活動を設定することにより、まとめ方についての明確な見通しをもつことができるようにする。
5	- 学習問題を立てる。 今後の日本におけるよりよい財政の在り方について意見文を書く。 - グループの中で五つの基本となる財政案の担当者をそれぞれ決める。	A B	B-① 対話の目的 五つの基本となる財政案について理解した上で、それぞれのメリット・デメリット等について検討し、「効率」と「公正」の視点からよりよい財政案を提案できるようにすることを目的とする。 B-② 編成・役割分担 一人が一つの財政案を担当できるように五人でグループを編成する。 担当して調べた財政案について説明し、その説明を基によりよい財政案を考え、検討させるようにする。
6 ・ 7 ・ 8 ・ 9	- 担当した財政案の担当者同士で集まり、資料等を調べる。 - 担当した財政案についてグループの他のメンバーに説明する。 - 五つの財政案について理解し、「効率」と「公正」の視点から財政政策を修正したり組み合わせたりして、よりよい財政案を考える。	B	B-③ 対話 同じ財政案を担当した生徒同士が集まり、資料を基に財政案について調べ、説明できるように理解を深めさせる。 グループのメンバーにそれぞれが担当した財政案についての説明をし、五つの基本となる財政案を踏まえたよりよい財政案を個人で考える時間を確保する。その後、「効率」と「公正」の視点からグループで検討させるようにする。
10	よりよい財政の在り方についての意見文を書く。	C	【第10時】 C-① 自分の考えの再構築 意見文は、提案する財政案を書くだけでなく、その財政案のメリットや事実、資料のデータ等を示しながら書くように促す。

単元(題材)の指導計画例 11

小学校

第 1 学年

算数

単元名「ひきざん (2)」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ◎ 具体物などを使いながら減法の計算の仕方を考え、すすんで生活や学習に活用しようとする態度

生きて働く「知識・技能」

- ◎ (十何) - (1 位数) の減法で、繰り下がりのある計算の意味や計算の仕方の理解
◎ 繰り下がりのある減法を正しく計算する技能

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ 繰り下がりのある減法の計算の仕方を、具体物や言葉、式、図を用いて表現する力

指導計画

(6 時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面			「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1	・減法が用いられる問題場面であることに気付き（求残場面）、計算の仕方を考える。	A	B	C	【第4時】 A-① 課題の設定と把握 14-6の計算の仕方について、具体物や言葉、式、図などを用いて、多様な方法を考えられるような課題を設定する。 A-② 自分の考えの構築 具体物を使って問題場面を確認し、児童全員が減法を用いる場面であることを理解できるようにする。 その上で、自分の考えを、言葉や式、図などを用いてノートに記述させるようにする。 B-① 対話の目的 自分の考えを班で発表し合い、よりよい計算の仕方を見いだすことを目的とする。 B-② 編成・役割分担 考えが異なる児童同士で4人の班を作り、一人ずつ順番に自分の考えを紹介し合った後、どの考えが分かりやすいかについて意見を出し合わせる。 C-① 自分の考えの再構築 自分の考えた計算の仕方だけではなく、友達が考えた計算の仕方でも問題が解けることを理解できるようにする。 また、問題によってどの計算の仕方を用いるかを考えられるようにする。 C-② 更なる課題の発見 繰り下がりのある減法について、もっと知りたいことや、次の時間にできるようになりたいことなどを考え、感想をもてるようにする。
2	・繰り下がりのある減法の計算では、10から先に引けばよいことに気付く（減加法）。 ・繰り下がりのある減法の計算をする。	A	B	C	
3	・減々法の計算の仕方を考える。 ・繰り下がりのある減法の計算をする。	A	B	C	
4	・繰り下がりのある減法のいろいろな計算の仕方を考える。	A	B	C	
5	・減法が用いられる問題場面であることに気付き（求差場面）、計算の仕方を考える。	C			
6	・問題づくりの活動を通して、減法の意味を確かめ、式と具体的な場面を結び付ける。	C			

単元(題材)の指導計画例12

高等学校

第1学年

数学

単元名「数と式」 第1節 式の計算

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ◎ 式の展開や因数分解を活用して具体的な事象を考察し、よりよく問題解決しようとする態度

生きて働く「知識・技能」

- ◎ 式を用いて事象を適切に表現し、目的に応じて式を変形する技能
◎ 乗法公式や因数分解の公式の意味の理解
◎ 複雑な式が簡単な式に帰着できることの理解

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ 一つの文字に着目したり、一つの文字に置き換えたりするなどして、いろいろな式の見方をし、目的に応じて式を変形する方法を考察する力

指導計画

(7時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1	・簡単な一次式の乗法や乗法公式を用いる簡単な式の展開など、中学校で学習した内容を確認する。 ・整式について理解する。	A	【第6・7時】 A-① 課題の設定と把握 因数分解する際に式を変形する必要がある問題を提示し、どのような形になれば因数分解できるのか確認する。 また、第3時で学習した式の変形の仕方(「積の順番を変える」、「式の一部を一つの文字に置き換える」、「一つの文字に着目して降べきの順にする」など)を確認することで、解決の見通しをもたせるようにする。 A-② 自分の考えの構築 必要に応じて、ワークシートには因数分解の公式を示し、式の変形に活用できるようにする。 B-① 対話の目的 どのように式を変形して因数分解の公式を使ったのかを確認し合い、目的に応じた式の変形ができるようになることを目的とする。 B-③ 対話 学習内容の理解度が異なる4人程度でグループを編成し、式の変形についての考えを確認し合い、どのような方法で式を変形すると因数分解できるのかを見付けられるようにする。 C-① 自分の考えの再構築 二次式での学習を活用して、三次式の展開や因数分解をすることができるかについて考えることで、二次式の展開と因数分解についての理解を深められるようにする。
2	・整式の加法、減法、乗法について理解する。		
3	・展開の公式について理解する。 ・式の形の特徴に着目して変形し、式を展開する。	B C	
4 ・ 5	・二次式の因数分解について理解する。		
6 ・ 7	・式の形の特徴に着目して変形し、二次式の因数分解をする。 ・三次式の展開や因数分解について考える。	A B C	

単元(題材)の指導計画例 13

小学校

第 6 学年

理科

単元名「月と太陽」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

◎ 月と太陽の位置関係や特徴について根拠に基づき判断しようとする態度

生きて働く「知識・技能」

- ◎ 月と太陽の位置関係や特徴についての観察・実験を行う技能
- ◎ 月と太陽の位置関係によって月の形の見え方が変わること及び月と太陽の表面の違いについての理解

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ 月の形の見え方や位置と太陽の位置の関係を推論する力
- ◎ 月の形の見え方や位置と太陽の位置との関係の規則性や相互関係について考察し、表現する力

指導計画

(7 時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面		「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1 ・ 2 ・ 3	・ 月と太陽の違いに気付く。 ・ 月と太陽の表面の様子を観察や資料等で調べる。	A	B	【第 4 時～第 6 時】 A-① 課題の設定と把握 前時までに観察や資料等を基に調べた月と太陽の表面の様子について整理をし、月自体が光ったり、変形したりしているのではなさそうであると推論させる。そして、月の形が変化して見えるのは太陽と関係がありそうだと考えられるような画像等を提示し、月と太陽の位置と月の形の見え方との関係性についての疑問を引き出し、問題を見いだせるようにする。 A-② 自分の考えの構築 第 3 学年で学習した太陽の動き、第 4 学年で学習した月と星の動きをヒントに、月の形の見え方や位置と太陽の位置について予想を立てさせるようにする。月と太陽のモデルを示し、月と太陽の位置関係と月の形の見え方についての実験の計画を立てさせる。 B-① 対話の目的 太陽と月のモデル実験の結果について話し合い、月と太陽の位置関係と月の形の見え方について整理してまとめることを目的とする。 C-① 自分の考えの再構築 実際に月と太陽の両方が見えるときに観察を行い、モデル実験で分かった月と太陽の位置関係と月の形の見え方についての考えを確かめられるようにする。
4 ・ 5 ・ 6	・ なぜ月の形の見え方が日によって変わるのかを、月と太陽の位置関係と結び付けて考え、計画的に追究する。 ・ 月の形の見え方と太陽の位置を観察して、モデル実験で得た結論を確認する。	A	B C	
7	・ 月と太陽の特徴をまとめる。	C		

単元(題材)の指導計画例 14

高等学校

第2学年

理科(生物)

単元名「刺激の受容」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

◎ 動物における刺激の受容について、科学的に探究しようとする態度

生きて働く「知識・技能」

◎ 動物の刺激の受容についての理解

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

◎ 動物の受容器、効果器に対する科学的な探究能力(論理的・分析的・統合的に考察する力)

指導計画

(10時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1	・受容と反応について大まかに理解する。	A	【第1時・第9時】 A-① 課題の設定と把握 第1時に刺激の受容と反応についての基礎的な内容を理解したうえで、生徒から出された疑問(なぜ老眼が起きるのか)を解決するための課題として設定することで、生徒が主体的に学習に取り組むことができるようにする。 A-② 自分の考えの構築 「視力低下の仕組み」を眼の構造や働きと関連させて考えることができるように、生徒に提示する資料を精選する。また、個別の支援が必要な生徒には、眼の構造や働きを振り返るように言葉掛けを行ったり、資料の中の特に関連となる部分を示したりして、考えをもつことができるようにする。 B-① 対話の目的 全員の生徒が、視力低下はどのようにして起こるのかを、眼の構造や働きと関連付けて説明することができるようになることを目的とする。 B-② 編成・役割 学習内容の理解度が異なる2人又は3人の生徒でグループを編成し、既習事項について教え合いながら課題を解決していけるようにする。 B-③ 対話 眼の構造や働きについての既習事項を確認し合い、視力低下がどのように起こるのかを作図を通して理解し、科学的に表現できるようにする。 C-② 更なる課題の発見 本時の学習でさらに疑問をもったことなどをワークシートに記入させるようにする。
2	・脳の構造とその働きについて理解する。		
3	・脳の構造と動物による違いについて理解する。		
4	・ニューロンの構造と伝導・伝達の仕組みについて理解する。		
5			
6	・眼の構造や働きについて理解する。		
7	・動物の眼の構造や様子について理解する。		
8	・盲斑の様子やその特徴を理解する。		
9	・眼の遠近調節の仕組みについて理解する。 遠近調節の方法を理解し、老眼の原因を考えよう。	A B C	
10	・耳の構造と働きについて理解する。		

単元(題材)の指導計画例 15

小学校

第2学年

生活

単元名「いきものとなかよし」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ◎ 生き物と関わり、生き物に親しみをもち、大切にしようとする態度

生きて働く「知識・技能」

- ◎ 生き物の飼育・観察を通して、生き物の変化や成長の様子についての気付き
◎ 生き物が生命をもち、成長していることについての気付き

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ 生き物を飼育し、生き物の変化や成長の様子を捉える力
◎ 生き物についての気付きを伝えたり、交流し、振り返ったりする際の表現する力

指導計画

(15 時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1	そだててみたいな ・生き物を育てたいという意欲を引き出す。	A	【単元全体】 A-① 課題の設定と把握 生き物と触れ合った経験等を基に、児童から生き物を育ててみたいという意欲を引き出し、共通の課題として設定する。さらに、生き物を育てる活動を通して気付いたことを、幼稚園児等に伝える学習を通して、生き物は生命をもっていることや成長していること等に気付き、自分の成長と重ね合わせて捉えられるようにする。 A-② 自分の考えの構築 育てたい生き物を決め、その生き物の生活環境や飼育方法等を調べる活動を通して、入手可能で自分で育てられる生き物を決めるようにする。
2			
3	いきものをそだてよう ・育てる生き物について調べ、計画を立てる。	A	
4			
5			
6			
7	いきものとなかよくなろう ・生き物の飼育を通して気付いたことを記録し、友達に伝える。	B	B-① 対話の目的 生き物を育てる中で、気付いた変化や成長について情報交換をし、生き物への親しみを増すようにする。また、生き物についての気付きを他の児童に伝えたり、幼稚園児等に伝えたりして、自分の成長にも気付かせるようにする。 B-② 編成・役割分担 共通の生き物を育てる児童を4人程度のグループにする。分担して生き物の世話をし、気付いたことを伝え合うようにする。
8			
9			
10			
11	いきものランドへようこそ ・幼稚園児や保育園児に生き物の飼育を通して気付いたことを伝える。	B	B-③ 対話 生き物の飼育を通して気付いたことを記録し、伝え合う。さらに、気付いたことをまとめて他の生き物を育てた友達や幼稚園児等にも伝えることで、気付きを深めることができるようにする。
12			
13	・生き物の飼育や飼育を通して気付いたことを伝える活動を振り返る。		
14			
15		C	C-① 自分の考えの再構築 自分が育てた生き物の変化や成長に気付き、その気付きを伝え合う活動を通して、自分自身の成長に気付けるような振り返りをする。

単元(題材)の指導計画例 16

小学校

第3学年

音楽

題材名「せんりつのとくちょうをかんじとろう」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ◎ 旋律の特徴が生み出す曲想のよさにふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとする態度

生きて働く「知識・技能」

- ◎ 歌詞の内容、旋律の特徴などが生み出す曲想にふさわしい表現で歌う技能

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ 旋律やリズムの特徴を聴き取り、それらの違いを感じ取って、表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもって考える力

指導計画

(5時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1	・ 拍の流れにのって「あの雲のように」を歌う。 ・ 主な旋律の音の上がり下がりを感じ取りながら歌う。		【第4時】 A-① 課題の設定と把握 旋律に着目して「ふじ山」を歌うことで曲想をつかませ、曲の山があることを感じ取らせるようにする。 A-② 自分の考えの構築 曲の山が出てくる3・4段目を曲想に合わせてどのように歌うかを考え、言葉やイメージを楽譜に記入させるようにする。 B-① 対話の目的 考えた曲想が相手に伝わるように工夫して3・4段目を歌い合い、自分の思いや意図を明確にしたり、友達の考えや表現のよさ等に共感したりすることを目的とする。 B-② 編成・役割分担 ペアとなって交互に歌い、互いに歌い方のアドバイスをし合う。 B-③ 対話 ワークシートを見て互いの思いや意図を知る。歌う児童は思いや意図を表現できるように工夫して歌い、聴く児童は歌う児童の思いや意図が伝わってくるかを観点として聴く。互いの歌を聴き合い、協力してより伝わる表現に高められるようにする。 C-② 更なる課題の発見 本時の自分の歌い方を振り返るとともに、次時の学習内容である「伸びやかな響きのある声で歌う」に向けて、基本的な声の出し方を再度確認し、自分の思いや意図を表現するための工夫と関連付けて新たなめあてを見いださせるようにする。
2	・ 「あの雲のように」の主な旋律の上がり下がりを感じ取りながら、曲想に合う歌い方で歌う。		
3	・ 「ふじ山」の曲想をつかんで歌う。 ・ 旋律の音の上がり下がりに気を付けて曲の山を感じ取る。		
4	・ 「ふじ山」の曲想にふさわしい歌い方を工夫する。 「ふじ山」の曲の山の歌い方を考え、曲想にふさわしい表現を工夫する。 ・ 「ふじ山」の曲の山を歌うために気を付けることを自分で考えてワークシートに書く。 ・ ペアで互いに聴き合いながら歌う。 ・ 発表を聴いて、参考になった考えや表現をワークシートに書き、再度、ペアで互いに聴き合いながら歌う。 ・ 「ふじ山」の曲想にふさわしい工夫を全体で確認し全員で歌う。	A B C	
5	・ 伸びやかな響きのある声で歌う。 ・ 思いや意図が伝えられる歌い方ができていたか振り返る。		

単元(題材)の指導計画例 17

中学校

第 1 学年

音楽

題材名「オリジナル・ヴォイス・アンサンブルをつくろう！」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ◎ 言葉とリズムが生み出す特徴に関心を持ち、創作活動に意欲的に取り組もうとする態度

生きて働く「知識・技能」

- ◎ 言葉とリズムが生み出す特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能
◎ 16 小節のヴォイス・アンサンブルをつくる技能

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ 言葉のもつリズムの面白さを感じ取る力
◎ 重なり方や強弱などを工夫して、思いや意図を表現する力

指導計画

(3 時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面		「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1	・ヴォイス・アンサンブルの曲の面白さを感じ取る。 ・身近な言葉とリズムの関係を知る。 ・夏休みの思い出をテーマに、個人でヴォイス・アンサンブルをつくる。	A	B	【題材全体】 A-① 課題の設定と把握 身近な言葉とリズムの関係に着目して、ヴォイス・アンサンブルの作品の鑑賞を行い、理解を図るとともに面白さを感じ取らせるようにする。 「夏休みの思い出」をテーマとして設定し、身近な言葉を使って夏休みの経験等を表現したヴォイス・アンサンブルづくりができるようにする。 A-② 自分の考えの構築 「夏休みの思い出」をテーマに、いくつかの言葉を選び、リズムと構成を視点として、ヴォイス・アンサンブルをつくるようにする。
2	・前時の学習で、個人でつくったヴォイス・アンサンブルを持ち寄り、グループでヴォイス・アンサンブルをつくる。 ・作った作品の工夫した点等をまとめる。	B	C	B-① 対話の目的 個人でつくったヴォイス・アンサンブルを持ち寄り、「グループ（4 人程度）でどのような曲にするか」についてストーリーやイメージを考え、構成等についての工夫を話し合い、グループで作品をつくることを目的とする。 B-③ 対話 個人でつくったヴォイス・アンサンブルを聴き合い、グループの作品のストーリーやイメージを絞らせる。つくりあげていく過程で各自が考えたことは必ず声に出して試させるようにする。また、考えたことはワークシートにも記入させ、把握できるようにする。
3	・ヴォイス・アンサンブルの作品を完成させる。 ・グループごとに作品を発表し、互いに聴き合う。	C		C-① 自分の考えの再構築 互いの考えたヴォイス・アンサンブルを生かして、グループの作品ができるように、自分の考えたリズムを見直したり、構成を変えたりしてグループの曲を仕上げるようにする。

単元(題材)の指導計画例 18

小学校

第 1 学年

図画工作

題材名「おって、たてたら…」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

◎ 紙を折って立てることを基本とした造形的な創造活動に主体的に取り組もうとする態度

生きて働く「知識・技能」

◎ 感性を働かせたり経験を生かしたりしながら材料や用具を使い、見いだした表したいことを表現するための創造的な技能

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

◎ 感性や想像力を働かせて、形や色などの造形的な視点で対象や事象を捉え、造形的なよさや面白さについて考え、創造的に発想や構想する力

指導計画

(4 時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1 ・ 2	- 紙を折って立てると、どのようなことができるかについて知る。 - 紙を折って立てる活動を通して発想を広げる。 - 紙を折って立てる活動のよさや面白さを感じさせ、既習の技能等も活用して更に発想を広げる。	A B	【題材全体】 A-① 課題の設定と把握 白い紙を折って立てるとできる形のよさや面白さを生かし、発想を広げることを児童に理解させるようにする。 A-② 自分の考えの構築 白い紙を折って立てるとできるものから発想を広げられるように、様々な大きさの紙でつくったサンプルを提示し、児童の活動を促すようにする。 B-① 対話の目的 白い紙が折ったり立てたりすると白い紙の形が変わり、よさや面白さが変わってくことに気付かせるようにする。 また、友達と一緒に活動することで、よさや面白さが更に変わることに気付かせるようにする。
3 ・ 4	- グループで紙を折って立てて生み出したものを持ち寄り、並べたり互に見合ったりする。 - グループでつくり出した場について想像を膨らませ、紙を折って立てる活動を更に進める。 - それぞれのグループが生み出したものを見合い、よさや面白さを伝え合う。	B C	B-② 編成・役割分担 第 1 時・第 2 時は、基本的には個人で活動する。 第 3 時・第 4 時は、全員が生み出したものを並べ、付け加えたり並べ替えたりする。 B-③ 対話 自分が生み出したものを見て、白い紙が形を変えたと、よさや面白さが変わることに気付くようにする。 また、友達の生み出したもののよさや面白さ等の気付いたことを、言葉で伝え合うように促す。 C-① 自分の考えの再構築 友達の生み出したものを見て自分の活動を広げたり、深めたりするために、形のよさや面白さに気付くための視点を示すようにする。

単元(題材)の指導計画例 19

中学校

第1学年

美術

題材名「木の命、ぬくもりの道具」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ◎ 道具についてよさや美しさを感じ取り、生活に生かせる道具の制作に主体的に取り組もうとする態度

生きて働く「知識・技能」

- ◎ 材料や用具の特性などから制作の順序を考え、見通しをもち、創造的に表現する技能

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ 用途や機能、材料などから、形や色彩の効果を生かして美しさなどを考え、表現を構想する力
◎ 道具を使用する人の気持ちや、道具の使いやすさ、デザインのよさなどを感じ取る力

指導計画

(15 時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1 ・ 2 ・ 3	- 身の回りにある道具について、使いやすさやデザインのよさを感じ取る。 - 道具について、用途や機能、使用する者の気持ち、木目の美しさや肌触りなどを考え、表現の構想を練る。	A B	【第1時～第12時】 A-① 課題の設定と把握 第1時では、身の回りにある具体的な道具の機能やよさについて、一人一人が自分の考えをもつ時間を設定する。その道具についての機能やよさを踏まえ、制作する道具についての考えや意図を設定し、構想を練ることができるようにする。 A-② 自分の考えの構築 ワークシートを用いて、自分が制作したい道具は誰がどのように使うのかを想定した上で、デザインを考えることができるようにする。 また、発泡スチロールの模型を見て手順を確認し、作業の見通しをもつことができるようにする。 B-① 対話の目的 道具のデザインを自分で何度も見直ししながら制作を進めることによって、道具についての考えや意図を明確にしていくようにする。 また、電動糸のこぎりや小刀等の用具の使い方については、友達と確認しながら作業を進めるようにし、安全な取り扱い方や友達の使い方について知り、自分の作品の制作に生かすことを目的とする。
4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	木の特性や用具の特性などから制作の順序を考え、見通しをもって制作する。	A B C	
13 ・ 14 ・ 15	- 木目の美しさや肌触りなどを生かして、作品を仕上げる。 - 互いの作品である道具を見て、その道具のよさや美しさについて伝え合う。		C-① 自分の考えの再構築 道具についてのデザインと制作中の道具自体の双方向から再検討し、デザインを見直したり、作業の見通しや使用する用具やその使い方の工夫について考えたりすることができるようにする。

単元(題材)の指導計画例20

小学校

第5学年

家庭

題材名「快適な衣服と住まい わくわくミシン」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

◎ 布を用いた生活に役立つ物の製作に関心をもち、製作し、活用しようとする態度

生きて働く「知識・技能」

◎布を用いた生活に役立つ物の製作に関する基礎的・基本的な知識・技能

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

◎布を用いた生活に役立つ物の製作について考えたり、自分なりに工夫したりする能力

指導計画

(14 時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面			「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1	・布で作られたものを探す。 ・布を縫うことの効果に気付く。				【第5時】 A-① 課題の設定と把握 コースターの製作を通して、布を縫うときは直線縫いだけではないことに気付かせるようにする。コースターには角があるため、ミシンをどのように操作して縫うときれいに縫えるかを考えさせる。 A-② 自分の考えの構築 前時までに学習したミシンの基礎的な操作の仕方や縫い方が確認できるような掲示物を用意する。また、角の縫い方を失敗した例を示し、どうすると上手に縫えるのかという視点から考えることができるようにする。 B-③ 対話 ペアで相談しながらコースターを製作させ、その後、よかった点と改善点を話し合い、正しい角の縫い方を見いだすことができるようにする。 ワークシートに製作したコースターを貼り付け、それぞれの角をどのように縫ったかや、考えた改善策等を記入できるようにし、掲示する。 C-① 自分の考えの再構築 友達のワークシートの掲示を見合い、気付いたことを更にワークシートに書き加え、ペアで確認させる。 C-② 更なる課題の発見 本時までに学んだミシンの縫い方は、次時からのエプロン製作に生かせることに気付くように、ミシンの縫い目が見やすいように作った実物のエプロンを示し、活動の見通しをもたせるようにする。
2	・ミシンの使い方を知る。				
3	・から縫いをして、ミシンの使い方を知る。				
4	・ミシンで布を縫い、使い方を習得する。				
5	・前時の学習内容を確認する。 角をきれいに縫うにはミシンをどのように操作したらよいか考えよう。 ・ミシンの縫い方を復習する。 ・コースターの角を縫うときにどうすればきれいにできるかを友達と相談しながら考え製作をする。 ・製作してみて気付いたことをペアでまとめ、全体に発表する。 ・ミシンの使い方を振り返る。	A	B	C	
6 13	・エプロンを作る。				
14	・製作を振り返る。				

単元(題材)の指導計画例21

中学校

第1学年

技術・家庭(家庭)

題材名「日常食の献立と食品の選び方」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ◎ 食品の選び方について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとする態度

生きて働く「知識・技能」

- ◎ 食品の選び方に関する基礎的・基本的な知識・技能

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ 食品の選び方について他者の考えを聞き、よりよい保存方法を見だし、安全で衛生的な食生活を実行しようとする力

指導計画

(6時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1	・生鮮食品の特徴と品質の見分け方を知る。		【第4時】 A-① 課題の設定と把握 身近な食品について、食中毒を防ぐための具体的な保存方法を考えることができるように課題を設定する。 A-② 自分の考えの構築 ワークシートに示された9種類の具体的な食品を例示し、食中毒の原因と防止する方法について学習したことを基に、食中毒を防ぐための保存方法を考えることができるようにする。
2	・加工食品の特徴と品質の見分け方、食品添加物の種類と特徴を知る。		
3	・食品の表示について調べ、まとめる。		
4	・食中毒の原因と防止する方法を知る。 ・課題を知る。 食中毒を防ぐための食品の保存方法を考える。 ・具体的な食品について食中毒を防ぐための保存方法を考える。 ・安全で衛生的な食生活を実現させる取組をまとめる。	A	B-① 対話の目的 指定された3種類の食品について、食中毒を防ぐ方法として個人で考えたことを伝え合い、その妥当性について検討させる。それを踏まえて、グループで考えた保存方法を提案することを目的とする。 B-② 編成・役割分担 4人で編成したグループの座席の位置によって司会、記録、発表用記録、発表者を指定し、グループでの活動時間を確保する。また、2つのグループに同じ食品の保存方法を提案させるようにし、それぞれの食品について全体でも比較・検討できるようにする。 C-② 更なる課題の発見 食中毒の原因と防止する方法、食品の保存方法を関連付けて捉え、安全で衛生的な食生活を実現させるための具体的な行動をワークシートに記入させるようにする。
		B	
		C	
5	・身近な食品の栄養的な特徴を調べる。		
6	・食品群別摂取量の目安と1日に必要な食品の種類と概量を知る。		

単元(題材)の指導計画例22

中学校

第2学年

技術・家庭(技術)

題材名「エネルギー変換に関する技術」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ◎ エネルギー変換に関する技術の課題をすすんで見付け、社会的、環境的、経済的側面から比較検討し、適切な解決策を示そうとする態度

生きて働く「知識・技能」

- ◎ エネルギー変換に関する技術を社会的、環境的、経済的側面などから比較検討する技能
◎ エネルギー変換に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響についての理解

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ エネルギー変換に関する技術の課題を明確にし、社会的、環境的、経済的側面などから比較・検討して、適切な解決策を見いだす力

指導計画

(4時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1	・様々な発電方式の特徴や課題について知る。	A	【第3時・第4時】 A-① 課題の設定と把握 我が国や世界のエネルギー事情を知り、エネルギーのベストミックスを考える意義を理解させる。その上で、架空の国の事情を踏まえ、ベストミックスを見付けるといった課題を設定し、様々な発電方式についての理解を深めることができるようにする。 A-② 自分の考えの構築 架空の国についてのエネルギーのベストミックスの割合を設定し、そのよい点、問題点を社会的側面・経済的側面・環境的側面から考えさせるようにする。 B-① 対話の目的 班で互いのベストミックス案を提案し合い、それぞれの案を社会的側面・経済的側面・環境的側面から検討し、架空の国のベストミックスを決め、プレゼンテーションすることを目的とする。 B-② 編成・役割分担 4人班で話し合う。司会を立てることで、対話の目的から話題がずれないようにする。班で決めた一つの案を全体にプレゼンテーションし評価し合うようにする。 C-① 自分の考えの再構築 各班のベストミックス案について、社会的側面・経済的側面・環境的側面から評価し合わせる。その後、「日本における2030年のエネルギーミックス(電源構成)について、目安とすべき具体的な数値」と自分が考えたベストミックス案を比較させ、社会的側面・経済的側面・環境的側面から再検討させる。それを踏まえて、よりよいエネルギーのベストミックスを見いだすことができるようにする。
2	・様々な発電方式の特徴や課題について、班で共有する。	A B C	
3	・エネルギーのベストミックスを多面的な視点で評価し、最適なベストミックスを立案する。	A B C	
4	・班で最適なエネルギーのベストミックスを検討し、多面的な視点で評価する。	A B C	

単元(題材)の指導計画例23

小学校

第3学年

体育

単元名「表現運動 表現『夏休みの一日(海へ行こう)』(具体的な生活からの題材)」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ◎ 題材の表現にすすんで取り組み、誰とも仲よく練習や発表をしたり、場の安全に気を付けたりしようとする態度

生きて働く「知識・技能」

- ◎ 身近な生活の題材から、その特徴を捉え、対応する動きを組み合わせたり繰り返したりして踊ることができる技能

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ 題材の動きのポイントやよい動きを知るとともに、自分に合った課題を選んだり、友達のよい動きを自分の踊りに取り入れたりすることができる力

指導計画

(6時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面			「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1	海で遊ぶ場面を即興的に踊ろう。	A	B	C	【第1時～第4時】 A-① 課題の設定と把握 イメージを広げたり、イメージに合った動きができたような言葉掛けをする。 スイカ割り、浮き輪、海に潜る、ビーチボールで遊ぶという毎時間の小テーマに関連した動きはどんな動きがあるかを発表させ、イメージや動きを広げていく。 A-② 自分の考えの構築 (やってみようタイム)教師の言葉掛けで即興的に踊ることができるようにする。 特徴的な表現をしている児童を積極的に称賛することで、その動きを広めていく。 B-① 対話の目的 (ノリノリタイム)「はじめとおわり」を付けて、ひと流れの動きをつくることができるようにする。 B-② 編成・役割分担 (ノリノリタイム)少人数のグループ(3～5人)で踊る。グループでイメージした動きを表現するために、例えばビーチボールを受ける人・打つ人、スイカを割る人・応援している人など、踊る役割を分担させる。 B-③ 対話 (ノリノリタイム)「はじめとおわり」を付けた踊りを見せ合う。よさを共有することができるように言葉掛けをする。 C-① 自分の考えの再構築 (ノリノリタイム)友達のよい動きを取り入れて、踊ることができるようにする。 (振り返り)友達のよかった動きを発表させる。 C-② 更なる課題の発見 (振り返り)友達のよかった動きを発表させるとともに、次時に自分が取り入れたい動きや工夫について考えさせる。
2	各時間の小テーマ (海で遊ぶ場面を表すもの) 【第1時】 スイカ割りをしよう				
3	【第2時】 浮き輪で遊ぼう 【第3時】 海にもぐろう 【第4時】 ビーチボールで遊ぼう				
4	・小テーマで特徴的な場面を全員で踊る。 (やってみようタイム) ・急変する場面の言葉掛けで即興的に踊る。 ・小テーマで特徴的な場面をグループごとに簡単な「はじめとおわり」を付けて踊る。 (ノリノリタイム)				
5	・第1時～第4時で学習した中からグループで気に入った場面を選び、「はじめとおわり」を付けて踊る。 (ノリノリタイム)	B	C		
6	・第5時で練習した、グループで選んだ「海で遊ぶ場面」を発表し合う。(ミニ発表会) ・表現することの楽しさや喜びを感じながら、「はじめとおわり」を付けたひと流れの動きで表現をする。	B	C		

単元(題材)の指導計画例24

中学校

第3学年

保健体育

単元名 球技 ゴール型「ハンドボール」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ◎ 球技の楽しさや喜びを味わい、自主的に学習活動に取り組もうとする態度
- ◎ フェアなプレイを大切にしようとする、自己の責任を果たす・参画する、作戦などについての話合いに貢献しようとするなどの意欲

生きて働く「知識・技能」

- ◎ 技術の名称や行い方、運動観察の方法についての理解
- ◎ 作戦に応じた技能で仲間と連携しゲーム展開ができる技能

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ 状況に応じた自己や仲間の役割を見付ける力
- ◎ 作戦などの話合いの場面で、合意を形成するための適切な関わり方を見付ける力

指導計画

(7時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1	・オリエンテーション ・基本的な技能の確認		【第2・3時】 A-② 自分の考えの構築 タスクゲーム（個人及び集団の技術的、戦術的能力、仲間と連携した動きの育成を目的とした、課題の明確なゲームのこと）に取り組むことで、課題の解決方法について考えることができるようにする。 B-① 対話の目的 タスクゲームを通して学んだ動きながらのパスやキャッチ、ボールを持っていないときの動きを、ゲーム中どのように発揮すればよいか考えることができるようにする。 チームごとにホワイトボードを活用させることで、作戦を視覚化し、ゲームの方針を確認することができるようにする。 B-② 編成・役割分担 運動の技能や人間関係に配慮して、5人チームを編成する。 キャプテン、副キャプテン、記録、用具など、役割分担を明確にすることでチームへの貢献度も高められるようにする。 C-① 自分の考えの再構築 動きながらのパスやキャッチ、ボールを持っていないときの動きをゲームに生かすことができたかを振り返ることができるような言葉掛けをする。 C-② 更なる課題の発見 本時のゲームを振り返り、次時に身に付けたい技能や練習したいことを記述できるようにする。
2	動きながらのパスやキャッチ、ボールを持っていないときの動きをゲームの中でどのように発揮すればよいか、チームで考えよう。	A B C	
3	・基本的な技能の習得 ・タスクゲーム ・メインゲーム	A B C	
4	・基本的な技能を応用し、ゲームができるようにする。	A B C	
5	・メインゲーム	A B C	
6	・攻守両面のチームの課題を発見し、解決できるようにチームでの練習を計画、実践する。 ・メインゲーム	A B C	
7	・チームで連携したプレイを使い、スペースに応じた攻防の展開を行う。 ・メインゲーム	A B C	

単元(題材)の指導計画例25

高等学校

第1学年

保健体育

単元名「現代社会と健康 健康の保持増進と疾病の予防」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ◎ 健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを知り、そのことについての考えをもち、健康的な生活を実践していくとする態度

生きて働く「知識・技能」

- ◎ 健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理する技能
◎ 環境を改善していくための基礎的な事項についての理解

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ 健康を保持増進するための課題の解決を目指して、総合的に考え、判断したことを表す力

指導計画

(10 時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1	・生活習慣病が増加した背景、予防法について理解する。		【第4時】 A-① 課題の設定と把握 「生活習慣病とその予防」(第1時～第3時)で学習した内容を踏まえ、健康的な生活の基盤となる運動を継続することの必要性を理解し、運動を実施する方法の提供や環境づくりについて、考えられるようにする。 A-② 自分の考えの構築 運動が健康に与える影響と、事前に調べてきた身近な大人の生活習慣や、社会の実態(グラフからの考察)を参考に、課題と具体的な対策を考えさせる。 B-① 対話の目的 互いの考えを聞き合い、互いの考えを融合させるなどして一つの案としてまとめることを目的とする。 B-② 編成・役割分担 ペアで発表する人と聞く人に分かれ、交代する。互いの案を十分に理解できるように質問し合わせる。 C-① 自分の考えの再構築 互いの考えのメリット・デメリットを整理し、自分の考えを再構築する。再構築した考えを再びペアでまとめて一つの案を作成し、その案を全体場で発表する。 C-② 更なる課題の発見 今後の自身の日常生活にどのように運動を取り入れ継続していくかをワークシートに記入させ、運動により健康を維持することについての考えをもたせるようにする。
2 ・ 3	・適切な食事とはどのようなものか日頃の食生活を振り返り具体的な改善策を考える。		
4	多くの人が日常生活の中で無理なく運動を実施する方法の提供や環境づくりについて考える。 ・健康を保つための運動を知り、実生活に役立てられるようにする。 ・運動を継続しやすい環境について考える。	A B C	
5	・健康によい三つの基本運動の具体的効果を知る。 ・自分の生活を振り返り、休養の重要性を考える。		
6	・休養の効果と種類を知り、使い分けられるようにする。		
7 ・ 8 ・ 9	・喫煙、飲酒が身体に及ぼす影響を理解する。 ・喫煙、飲酒が社会に及ぼす影響と、その対策について考える。		
10	・薬物乱用の危険性を理解し、個人・社会の対策を考える。		

単元(題材)の指導計画例26

小学校

第5学年

外国語活動

単元名「Lesson5 “What do you like?”」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ◎ 好きなものを尋ねたり答えたりしながら、友達や先生と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度

生きて働く「知識・技能」

- ◎ 食べ物やスポーツ、教科などの英語での言い方、好きなものを尋ねたり答えたりする英語表現への慣れ親しみ

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ 自分の好きなものを尋ねたり、答えたりするための英語表現を思考し、使用する英語表現を判断し、自分の好きなものを表現する力

指導計画

(4時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1	・スポーツや教科の英語の言い方、好きなものを尋ねたり答えたりする英語表現を知る。 “What ~ do you like?” “I like ~.” ・スポーツや教科の日本語と英語の言い方の違いに気付く。		【第2時】 A-② 自分の考えの構築 外国の小学生の自己紹介を聞いて、自分たちと外国の小学生の好きな物が異なるのかについて予想させる。 B-① 対話の目的 自分たちの自己紹介カードと外国の小学生の自己紹介カードを見たり、それについて話し合ったりすることで、学級の児童が好きなものと、外国の小学生が好きなものの違いや同じところに気付き、互いの国や文化についての理解を深めることができるようにすることを目的とする。 B-② 編成・役割分担 4人班で行う。自分の自己紹介カードと外国の小学生の自己紹介カード3枚を、各自に口頭で紹介させ、全員が英語で発話する機会を保障する。口頭で紹介が終わったら、自己紹介カードを好きなものや国等で分類させる。 C-① 自分の考えの再構築 本時で分かったことを振り返り、個人の違いだけでなく、世界の様々な国には文化的な違いがあることにも気付かせるようにする。 Review Cardに次時のめあてを記入させ、その記入へのコメントをすることで、学習への意欲を高め、維持できるようにする。
2	・好きなものを尋ねたり、答えたりしながら、世界には様々な文化があることを知り、日本との文化の違いに気付く。	A B C	
3	・好きなものを尋ねたり、答えたりする英語表現に慣れ親しむ。		
4	・好きなものを尋ねたり答えたりしながら、友達や先生と積極的にコミュニケーションを図る。		

単元(題材)の指導計画例27

中学校

第3学年

外国語

単元名「Lesson7 English for Me」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

◎ 自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度

生きて働く「知識・技能」

◎ 主語＋want＋目的語＋to 不定詞及び主語＋動詞＋what 等で始まる節を含む文の構造の理解

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

◎ 知識や得た情報を活用して、自分の意見や考えを外国語で形成・整理・再構築する力

指導計画

(11時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	・本単元の課題を知る。 未来の自分への手紙を書き、スピーチをしよう。 ・English for Meという教科書本文を読み、概要を理解する。 ・主語＋want＋目的語＋to 不定詞、主語＋動詞＋what 等で始まる節、間接疑問を含む文の構造を理解し、自分の考えを表現するために有効な表現を活用して、英文との関わりについて、5文程度にまとめる。	A	【単元全体】 A-① 課題の設定と把握 英語を使ってどのようなことができるかを考えるとともに、これから先どのように英語を学び、どのように使用していくかについて思いをめぐらせ、3年間の英語の学習を振り返らせることができる課題を設定する。 A-② 自分の考えの構築 English for Meに示された内容を踏まえた自分の考えを、第1時～第6時で学んだ表現を生かして、未来の自分への手紙という形で表現させる。未来の自分像を設定し、その自分像に伝えたいことを考えさせるようにすることで、手紙の内容を考えやすくする。
7	・15文程度のスピーチ原稿を書く。	B	B-① 対話の目的 他者のスピーチを聞いて、自分の考えを深めたり、自分の考えを分かりやすくスピーチして他者に伝えたりすることができるようにする。
8 ・ 9	・ペアで発表の練習をする。 ・互いの発表の内容や表現について質問をしたり、感想を言ったりする。		B-② 編成・役割分担 第8時・第9時では、ペアで互いの発表を聞き合い、内容と表現について質問や助言を行う。 第10時・第11時では、4人でスピーチをし合い、感想を伝え合うようにする。
10 ・ 11	・英語との関わりをテーマに、将来の展望についてスピーチをする。 ・他の人の発表を聞き、共感したり反対に感じたりすることや、新たに分かったことなどから、更に英語との関わりや将来の展望についての考えを深める。		B-③ 対話 友達のスピーチを聞き、自分のスピーチの内容を見直したり、表現を変えたりして、誰にでも分かるスピーチが自信をもってできるようにする。
		C	C-② 更なる課題の発見 英語と自分の関わりや、未来の自分について考えたことを基に、これからどのように生活をしていくかについて自分の課題をもつことができるようにする。

単元(題材)の指導計画例28

高等学校

第1学年

情報(社会と情報)

単元名「情報通信ネットワークとコミュニケーション」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ◎ 情報通信ネットワークのテクノロジー等の知識を常に最新のものに更新し、通信が困難な状況においても社会全体で問題を解決しようとする態度

生きて働く「知識・技能」

- ◎ 情報通信ネットワークの仕組みの理解
◎ 適切な情報収集・情報発信をする技能

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ 目的や状況に応じて適切な情報通信手段を選択する思考力・判断力

指導計画

(4時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
1	・情報通信の仕組みインターネットの仕組みについて理解する。		【第4時】 A-① 課題の設定と把握 社会で起きている問題を示し、第3時までに得た知識や技能を活用して解決できる課題を設定することで、主体的に活動に取り組むことができるようにする。 A-② 自分の考えの構築 既習の情報通信ネットワークの仕組みに基づいて、科学的にどのような現象が生じているかを推測することができるようにする。その現象を緩和する方法として、①設備として事前に備えること、②そのとき自分がすべきこと、③避難者全員ですべきこと、の3つの視点を与え、自分の考えを構築することができるようにする。 B-① 対話の目的 個人の推測を統合し、現象の仮説を立てる。①②③の意見を共有した後に、合意形成できる最大限の範囲を決めることを目的とする。 B-② 編成・役割分担 合意形成を容易にさせないよう、6人×7班を編成する。グループで1人のファシリテータを決め、進行管理、意見の集約、意見の整理、合意形成の判断の役割を任せようにする。 C-① 自分の考えの再構築 自分ができること、すべきこと、我慢すべき自分の行動をまとめ、社会全体への貢献を考えることができるようにする。 C-② 更なる課題の発見 交通、エネルギー、資源など、社会全体で共有しているものについて考えさせ、「公共性」の概念を深く理解できるようにする。
2	・インターネットを利用したサービス「電子メール」の適切な利用方法を理解する。		
3	・WWWやエキスパートシステムにおいて、複雑な情報検索方法を身に付ける。		
4	・ネットワークの公共性を理解し、行動規範を考える。 発災時の避難所において、スマートフォンでのデータ通信が著しく遅い状況である。また、バッテリーの残量が少ない避難者が大勢いるようである。この状況においてどのように対処すべきか。	A B C	

単元(題材)の指導計画例29

小学校

第5学年

道徳

教材名「彼が劇団を辞めなかったワケ」 D「よりよく生きる喜び」

単元全体で育てたい資質・能力

人間としてよりよく生きようとする
道徳性

- ◎ よりよい自分になるために努めていこうとする力(道徳的判断力)
- ◎ 努力を続けることで誰かが見ていて支えてくれることに喜びを感じ、続けられていることに気付く力(道徳的心情)
- ◎ クラスの友達も認めてくれていることに気付き、これからも努力して高め合い、自信をもち、よりよく成長していこうとする力(道徳的実践意欲と態度)

指導計画

(1時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
導入	・萩本欽一さんについて簡単に知る。		A-① 課題の設定と把握 努力が報われず、あきらめそうになったときにも、周りの人々の支えによって続けられることがあることを知り、よりよく生きることについて考えることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等)
展開	・資料を読む。 ・「感動した場面」及び「その理由」を書く。	A	A-② 自分の考えの構築 資料を読み「感動した場面」及び「その理由」を考え、「彼」の気持ちに共感することで、感謝や感動を捉えることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等) 気付かないところで自分もたくさんの人に認められ、支えられていることを意識し、自分の人生に喜びを見だし、よりよい自分になるために努力しようという心情を高めることができるようにする。(学びに向かう力・人間性等)
	・欽ちゃんが「人生で一番泣いた」ときの心の中を考える。	A B C	B-① 対話の目的 他の児童の考えを聞き、共有したり比較して考えたりすることで、現在やこれからの喜びについて捉えることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等) B-② 編成・役割分担 クラス全員が黒板の前に集まり、自分の書いた短冊を黒板に貼らせる。 友達の意見を受け止めて感じたことを次々に話して考えることで、深め合う。(思考力・判断力・表現力等)
終末	・「今も自分の心に残っている言葉・その理由」あるいは「学習の感想」を書く。	C	C-① 自分の考えの再構築 学習感想の記入では、今までの生活を振り返り、よりよく生きることの喜びを感じ取ることができるようにする。(学びに向かう力・人間性等)

単元(題材)の指導計画例30

中学校

第2学年

道徳

教材名「ネパールのビール」

A「自主、自律、自由と責任」

単元全体で育てたい資質・能力

人間としてよりよく生きようとする
道徳性

- ◎ 人間のもつ強さや気高さ、生きることの喜びについて考え、班の友達との意見交換を通して他者の意見を聞くことで、誠実な生き方や人間として誇りある生き方に対して自分の考えを深める。(道徳的判断力)
- ◎ 日本とネパールの生活環境の違いの理解を通して、誠実に生きる喜びや気高さ(道徳的心情)
- ◎ よりよく生きようとする態度(道徳的実践意欲と態度)

指導計画

(1時間扱い)

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
導入	・ネパールの生活環境や、若者や子供の現状について知る。		A-① 課題の設定と把握 日本とネパールの生活環境の違いから、筆者の気持ちの変化について考えることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等) A-② 自分の考えの構築 筆者がチェトリを心配する気持ちと疑う気持ちを想像し、話し合う上での立場を明らかにすることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等) B-① 対話の目的 複数の意見を共有することで、筆者の心情だけではなく、チェトリの誠実さやよりよく生きる喜びについて気付くことができるようにする。(思考力・判断力・表現力等) B-② 編成・役割分担 4人グループで話し合う。グループ内で、司会と、学級全体に発表する役を決めて行うように指導する。 B-③ 対話 グループで話し合った後、グループで話し合ったことを学級全体に発表することで、一人一人の考えを学級全体で共有することができるようにする。(思考力・判断力・表現力等) C-② 更なる課題の発見 グループごとに話し合った内容の発表を聞いたことを踏まえ、本時の学習を振り返り、どのようなことを大切にしたいかを考えることができるようにする。(学びに向かう力・人間性等)
展開	・資料を読む。 ・チェトリにビールを買いに行くとされたときの筆者の気持ちを考える。 ・筆者の気持ちの変化について考える。		
	・筆者の涙について個人で考え、その後4人グループで話し合う。 ・グループでの話し合いの後で、全体で共有する。	A B	
終末	・本時の学習を振り返り、どのようなことを大切にしたいかを考え、ワークシートに書く。	C	

単元(題材)の指導計画例31

小学校

第5学年

特別活動

学級活動(1) 議題名「長なわ大会をしよう」

単元全体で育てたい資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

- ◎ 学級の生活の充実に関わる問題に関心をもち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとする態度

生きて働く「知識・技能」

- ◎ みんなで楽しく豊かな学級の生活をつくることの意義についての理解
◎ 学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方についての理解及び技能

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

- ◎ 楽しく豊かな学級の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し合って実践する力

指導計画

時	学習内容・学習活動	学習場面	「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にした学習指導のポイント
事前の活動	(計画委員会) ・役割分担をする。 ・議題、話し合いの柱、めあて、流れを決める。 (全員) ・学級会ノートに自分の考えを書く。 (計画委員会) ・学級会ノートの意見を基に、話し合いの進め方を考える。	A	【事前から学級会まで】 A-② 自分の考えの構築 「学級会カード」には、事前のルールや必要な役割分担を考えて、記入させておく。また、学級会に向けて、自分の考えを書き、整理して臨めるようにする。 B-① 対話の目的 長なわ大会のルールや役割分担等を決めることを目的とする。その際、議題や話し合いの柱から外れないように、提案理由を押さえて話し合うようにさせる。 B-② 編成・役割分担 司会グループと教師は事前に打ち合わせを行い、話し合いの柱、進行についての確認を行うようにする。 (司会グループの構成) 5名の例 ・司会 1名 ・副司会 1名 ・黒板書記 2名 ・ノート書記 1名 B-③ 対話 次のような流れで話し合いを進めさせる。 議題の確認 ➡ 提案理由の発表 ➡ 話し合いの柱1 ➡ 話し合いの柱2 ➡ 決まったことの確認
学級会	学級会 議題 「みんなが楽しめる長なわ大会をしよう」 提案理由 運動会のときのように、一つの目標に向けて活動して、男子と女子の仲をもっと深め、協力できるクラスにしたいから。 話し合いの柱1 協力できるルールを決めよう。 話し合いの柱2 役割を決め、分担しよう。	B C	C-① 自分の考えの再構築 「学級会ノート」に、話し合いの振り返りを書く。この際、「一つの目標に向けて活動し、男子と女子の仲をもっと深め、協力できるクラスにしたい」という提案理由を必ず振り返り、達成できたかについても記述させる。 C-② 更なる課題の発見 話し合い活動の様子や、児童の振り返りを基に、成長が見られたり、友達のことを考えたりしている言動や司会グループの工夫等について、教師が称賛・助言をする。これにより、更なる課題を見付けられるようにする。
事後の活動	・決定した役割分担で、大会に向けての諸準備をする。 ・長なわ大会をする。(集会活動)		